

活動テーマ

「世界の子どもにワクチンを！」エコキャップ運動

取組の概要について

保健委員会では、ペットボトルキャップ回収の取組を行った。学校にペットボトルキャップ回収箱を設置し、校内ポスターの掲示や定期的に校内放送を使って、活動への参加をよびかけた。

また、保健委員会が作成したポスターを、地域のコミュニティセンターに掲示して、地域の方々への協力をお願いした。集まったペットボトルキャップの数とそれによる成果(ワクチンの提供量)が分かるよう結果を校内に掲示した。

1 実践の概要

武佐小学校では、各学年でSDGsについて学習をしています。今年度、4月に保健委員会では、SDGsの取組について、何か行動できることはないか話し合った。発展途上国では1日4,000人、時間にして20秒に1人の赤ちゃんや子どもが、ワクチンがないために命を落としていること、プラスチックごみが海に流れると、海が汚くなるだけでなく、海の生き物やそれを食べる人間などにもさまざまな影響を与えていること、そして、地球温暖化を防ぐために、CO₂の削減が急務であることを学習した。

これらのことを解決するために、今年度から、保健委員会でエコキャップ運動の取組を始めた。

学校にペットボトルキャップ回収箱を設置し、校内ポスターの掲示や定期的に校内放送を使って、活動への参加をよびかけた。

また、保健委員会が作成したポスターを、地域のコミュニティセンターに掲示して、地域の方々への協力もお願いしている。



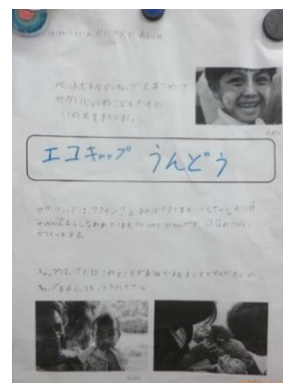
2 実践の内容と工夫

(1) 取組のよびかけ

ア 全校へのよびかけ

保健委員会では、定期的にお昼の放送で、ペットボトルキャップ回収について呼びかけた。この取組が「いのち」を救えるだけでなく、環境を守ることにつながることも伝えた。

また、各教室にポスターもはり活動の参加を呼びかけた。



イ 地域への呼びかけ

保健委員会が作成したポスターを、武佐コミュニティセンターに掲示して、地域の方々への協力もお願いした。



ウ その他の広報活動

この取組についてプレスリリースを行い、地域のケーブルテレビ（ZTV）や新聞社に取り上げてもらった。



これらの取組により多くの方に協力いただけるようになった。

(2) 成果の見える化

集まったペットボトルキャップの数とそれによる成果（ワクチンの提供量）が分かるように結果を廊下に掲示した。「成果が見える」工夫をしたことで、保健委員の意欲や学校全体の回収ムードが高まった。



3 取組の成果と課題

(1) 取組の成果

ア 児童の主体的な取組

4月に保健委員会として何をすべきかを時間をとって話し合ったことで、課題意識をもって取り組むことができた。



また、児童のアイデアを具現化したり、成果を見える化したりすることによって、児童が達成感を感じられる取組となった。

イ 地域を巻き込んだ取組

武佐コミュニティセンターへのポスターの掲示やケーブルテレビ等が取組を取り上げてもらったことにより、児童の取組への意欲も上がるとともに、地域における認知度も上がった。今では地域の方も小学校にペットボトルキャップを持ってきてくださっている。

ウ 児童の活動を始める前と後の意識の変化

特に、保健委員会の児童は、取組を通して、環境問題に興味をもつきっかけや達成感や充実感につながる取組となった。

【保健委員会の児童の感想から】

- ・取組前は特に意識をしていなかったが、取組を通して環境問題に興味をもった。
- ・取組を行うようになってから、家のごみがどのように回収されているか調べた。
- ・キャップだけでなくペットボトルも家で集めてリサイクルに出すようになった。
- ・ペットボトルキャップがたくさん集まったものを見ると、自分たちも地球のために活動できてるんだと思った。
- ・友達だけでなく、地域の方に「頑張ってるね」と声をかけられて、うれしかった。
- ・三日月知事のメッセージをもらったり、テレビや新聞の取材があったりして、うれしかった。

(2) 取組の課題

ア 環境への意識を全校に広げる

保健委員会の児童は、取組を主体的に行うことによって、環境問題に関心をもつきっかけになったが、全校児童の意識の変容までにはつながっていない。環境への意識を全校に広げるための工夫が必要である。

イ 取組が形骸化しない工夫

来年度以降、取組が形骸化しないように、今年度のような課題意識をもった取組ができるよう工夫が必要である。

4 学校におけるCO₂ネットゼロ活動の今後の展開

(1) ペットボトルキャップ回収の継続

今後、ペットボトルキャップ回収は武佐小学校の児童会活動の大切な取組として位置づけ活動していく。

(2) ペットボトルキャップ回収を活用した環境教育の充実

全校児童の環境問題への関心をもつきっかけとなるように、ペットボトルキャップ回収を導入とした環境に関わる授業を行う。

(3) コミュニティ・スクールを活用した取組の活性化

コミュニティ・スクールとしての環境への取組につながるよう検討する。

学校名	近江八幡市立武佐小学校
住所	近江八幡市武佐町118
電話番号	0748-37-6025
E-mail	musa-es@omihachiman.ed.jp

